

各郡の農林事務所紹介(3)

第19号から複数回にわたり各郡で農家の助言指導につとめる郡農林事務所を特集しています。Savan PAD プロジェクトは、2021年7月現在、サバナケット全15郡の内、9郡に合計12箇所の対象地区を選定し、活動を展開しています。今回は、2018年6月から活動を開始した、カイソン・ポムウィハーン郡、ターパントーン郡の両農林事務所を紹介します。

カイソン・ポムウィハーン郡農林事務所

プロジェクト対象地区: ポンシム地区



カイソン・ポムウィハーン郡(カイソン郡)は、サバナケット県の県都であり、農産物の生産や販売における重要な拠点です。元々、当郡では4つの対象村で有機野菜の拠点を設ける計画があり、実際に事業が継続できているのはポンシム農家グループのみです。同グループは、その後もSavan PADから様々な技術や教訓を得ること



で販売チャンネルを拡大し、市場ニーズへの対応にも積極的です。今後もさらなる知識と経験を積み、他地区の農家へも指導できることが期待されます。

カイソン郡農林事務所
ウンカム所長

全 般

同郡は、サバナケット県都に位置し、大きな消費地に最も近い地域です。

プロジェクトでは、マーケティング分野に特化した支援を行っており、対象地区の農家グループに対して、「作ってから売る」でなく、「売のために作る」をキーワードに、安全な有機野菜の栽培・販売に力を入れています。



ポンシム地区を訪問する
カイソン DAFO 職員たち



野菜を直売するポンシムグループ
を視察する他地区の農家たち

ポンシム地区におけるマーケティング／園芸栽培活動

- ・ポンシム有機野菜栽培グループは、他地区からの視察や農家間研修の受け入れなど、Savan PADの対象地区の園芸栽培においてリーダー的立場にある。
- ・野菜栽培農家は、当初6人(2018年)から23人(2021年)に増加した。
- ・有機野菜の販売は、ポンシム地区内の直売所、サバナケット市内の市場、レストランなど広範囲に展開中。
- ・県内の他地区の野菜栽培グループとの連携や流通のハブ役としても活動を試みている。
- ・継続的に市場へ野菜を供給できるよう、グループとしての栽培計画の作成・実施を強化中。



ターパントーン郡
農林事務所
ソーンカム副所長

ターパントーン郡における特筆すべき点は、セーサラロン・ダムを利用した灌漑です。ここでは、高低差を使って農地へ配水するためポンプを使用せず、したがってポンプの電気代を支払う必要がなく、コスト面で有利な環境にあります。一方、生産面では、Savan PAD の他の対象地区と比べて改善点が少なくありません。

これからも、他郡が成功に至った技術や経験を共有し、研修で技術面を学び、既に有している灌漑水路を有効活用しながら生産性を向上することに繋がっていききたいと思います。



営農分野

- ・種子・肥料貸与事業をこれまで5季実施して364農家、対象地区のほぼ全員が参加。現在6季目を実施中。
- ・対象地区のコメ収量が14%増加した。(2018年と2020年雨季の間取り調査結果比較)
- ・遠隔地で優良種が入手しにくいいため、種子生産を実施している。



灌漑／水利組織強化分野

- ・水利組織は毎月2回以上の会合を行い、問題の解決、水管理の向上に努めている。
- ・水利組織は水利費回収の必要性を、農業者は水利費支払いの必要性を理解しており、徴収率は100%。
- ・乾季の灌漑面積が3倍に増加している。

285ha → 861.2ha

(2017-18年と2020-21年乾季の比較)

- ・公平な水利費徴収・灌漑マップの作成のため、DAFO職員がGPSを用いた農地面積の測定を実施。職員らの意欲が高く、作業は順調に完了した。

マーケティング

／園芸栽培分野

- ・2019年に複数の農家で安全野菜生産グループを設立し、直売所で野菜販売を実施中。
- ・販売額は、2～4倍と順調に増加している。(プロジェクト開始前と2020年雨季作までの比較)
- ・雨除け栽培ハウスは8棟(2018年)から増設中。今年は通算で27棟となる予定。

- ・プロジェクトで実施したスタディツアーや農家間研修を通じて、農家の意欲が著しく向上している。



堆肥作りを実習する農家

全般

同郡は、サバナケット県都から距離的に遠いものの、2020年に隣県サラワンへの道路が開通し、農業センターも開設されるなど、開発が進んでいます。

また、プロジェクトが活動するセーサラロン地区は、大規模なダムの下流域として広大な農地(2,000ha)を有しており、県内でも開発が大きく期待されているエリアです。